



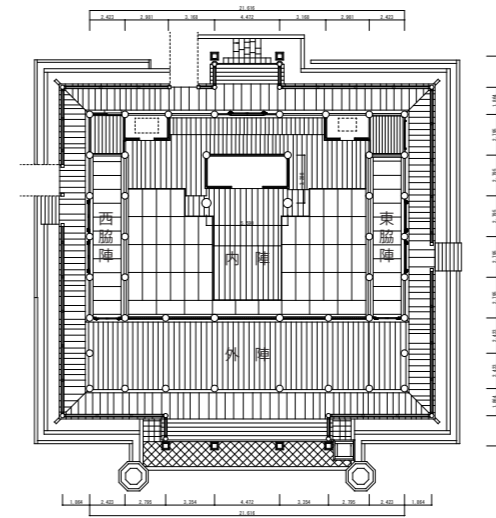
本堂 本瓦葺屋根完了



本堂 修理前 内観 (内陣)



本堂 修理前 外観



本堂 平面図 (修理後)

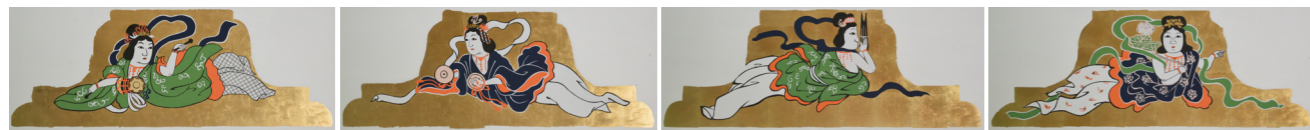
# Honryu-ji Temple ほんりゅうじ 本隆寺 本堂ほか2棟

京都市上京区

本堂 | 江戸時代 明暦3年(1657)

祖師堂・附廊下 | 江戸時代 中期

事業期間：平成28年11月～令和9年12月(予定)



内陣紙貼り彩色本紙復原製作



内陣外陣境部戸取付



西脇壇黒漆上塗り



四天柱金箔押し

本隆寺は、日蓮門下諸宗の一つである法華宗真門流の総本山で、慧光無量山本妙興隆寺と号し、略して慧光山本隆寺と称します。五辻通りに面して南向きに正門を構え、西陣の家並みに囲まれた土地に本山及び八つの塔頭が伽藍を形成しています。

創建は長享2年(1488)、妙本寺(現在の妙顕寺)の日具から弟子日真が分かれたことに始まります。翌3年(1489)には、京都四条大宮に堂宇が建立されますが、天文5年(1536)、天文法華の乱により堂宇が焼失、天文11年(1542)に至って、現在の寺地の西隣付近に寺院を復興しました。その後、天正12年(1584)、豊臣秀吉による聚楽第造営に伴い、現在の地に移転しました。

本堂及び祖師堂は、西陣一帯を焼き尽くした享保15年(1730)の「西陣焼け」や京都で発生した史上最大規模の火災と言われる天明8年(1788)の「団栗焼け」など幾多の火災から奇跡的に焼け残ったことから、「焼けずの寺」の異名で親しまれています。また、本堂の一郭に西陣五名水の一つ「千代ノ井」があります。

## 本堂 重文 《修理中》

本堂は、三宝尊(題目宝塔・釈迦如来・多宝如来)を本尊とするお堂で、明暦3年(1657)に上棟しました。桁行21・6メートル、梁間18・8メートル、入母屋造、本瓦葺の建物で、ろ中における日蓮諸宗本山寺院の中では、最古の遺例です。七間堂の規模を有し、平面は内陣・外陣・脇陣で構成され、内陣中央に須弥壇、両脇に宮殿を据えた脇壇が置かれます。今回は建立以来、初めての根本修理です。

### 修理の内容

修理前は、小屋組の傾斜が進行し、軒廻りは経年の屋根荷重によって大きく乱れていました。また、小屋組みには腐朽が確認されていました。以上の状況から、軒廻りまでの半解体修理として工事を実施中です。

令和5年度は素屋根解体が完了し、本堂修理事業も竣工をむかえます。堂内では最終の仕上げとして畳工事、表具工事等を行い、建物周辺では外構整備を進めます。新たに蘇った本堂の姿をぜひご覧ください。

## 祖師堂 重文 《着手中》

祖師堂は、本堂の西隣に並立して建つお堂で、江戸時代中期の建立と考えられます。桁行三間、梁間四間、寄棟造、本瓦葺とし、屋根は鋸状に段差を付けます。内陣の中央須弥壇及び東脇壇にはそれぞれ宮殿を据え、宗祖日蓮坐像、開祖日真坐像を祀ります。

小屋梁の一部折損、屋根瓦の緩み、軒の垂下など根本修理が必要な状況です。令和5年度は素屋根を建設し、半解体修理に着手する予定です。



祖師堂 修理前 外観